

講演会 『幸せな時間の作り方ー私たちにできるエコライフー』 講演要旨

平成20年2月29日開催



講師:早見優さん(歌手)

聞き手:竹島久美子さん(レポーター)

【早見優さんに環境問題についてお聞きしました】

——— 早見さんが環境問題について興味をもったきっかけは？

★小学校6年生のまだハワイに住んでいたときに、学校の担任の先生が放課後に空き缶を取り出して、「これ、みんな何だと思う？」と聞いてきたんですよ。みんな当たり前「ごみ」と言ったんですけども、「違うんだよ、これはごみじゃないんだよ。空き缶は集めれば資源になるんだよ。」と言われて、それ以降クラスのみんなで近所のポイ捨てされている空き缶を拾って、リサイクルショップに持って行きました。それで多少もらったお金を学校に寄附して、そのお金で学校の遊具関係など買って。それが最初に環境問題に興味を持ったきっかけですね。

——— 早くから環境問題に興味を持っていた早見さんですが1992年にブラジルのリオデジャネイロで行われた「地球サミット」に参加されましたよね？

★作詞家の湯川れい子さんから「50代、60代の方々に地球環境に興味を持っている人が多いんだけど、これからは20代の方が興味を持って引っ張っていかないとだめだから行かない？」と声をかけられたのがきっかけでした。そして20代の人に伝えようという感じで始まったんですけども、当時はごみの分別なんて面倒くさいとか、ごみの有料化もあり得ないという時代でした。それが、徐々にメンズ雑誌とか女性誌に環境問題が取り上げられてくるようになったので、そろそろかなと思ったのが1992年の10年後の2002年。やっと、普及し始めたな、これが当たり前のことだなという感じでしたね。

——— 「地球サミット」に参加されて意識とか変わりましたか？

★変わりました。当時、12歳の子供が「大人はみんな勝手過ぎる。私たちの地球を好き勝手に使って、私たちが大人になるころ、住み心地の良い地球ではなくなっていくんじゃないか。」と、すごくいいスピーチをしたんです。自分も25～26歳だったので立派な大人ですよ。あつ、そうか、次世代のことを考えなきゃいけないんだと思いました。

——— 2児のお母さんでもある早見さんですが、お子さんの環境問題についての意識はいかがですか？

★うちの長女は6歳なんですけれども、彼女から学ぶことも多くて、学校での授業の一環として環境問題について勉強していると思うんですけども、一緒にお散歩していてポイ捨てがあると、「ポイ捨てがある。ママ、これ、はい」と拾って渡してくれるんですよ。

——— では、早見さんが考えるエコライフについて教えていただけますか？

★大きなことではなく、私たち一人一人がコツコツ活動すれば、絶対大きいものにつながると思います。特に今はエコな製品が普及してますが、私が普及委員を務めている「ヒートポンプ・蓄熱システム」。快適なライフスタイルを維持しながらも、CO₂ の排出を削減することができる商品もあるので、買い換えるときにそういう商品を選ぶなど。でも、意識をして自分ができる限りのことをやるというのが一番いいと思います。あまり無理をすると続かなくなってしまうと思うんですよ。最後に、今日からみんな楽しくエコライフということで。ありがとうございました。